

2014スーパーGT第1戦 「OKAYAMA GT 300KM RACE」  
岡山国際サーキット

#37 LEXUS TEAM Keeper TOM'S RCF

新車両「キーパーRCF」  
デビュー戦初優勝!!

新生スーパーGT、21年目のシーズンは大幅にレギュレーションが変更し、GT500はその走りや戦略など大きな変化が求められる。トヨタ、日産、ホンダの3メーカーとも、レースをしながらマシン開発の改良をし、精度を高めていくこととなるだろう。そんな予測不可能なデビュー戦で優勝を獲得した#37 LEXUS TEAM Keeper TOM'S RCF。これはとんでもないことなのだそうだ。



未だ計り知れない実力を秘めたマシンにアグレッシブに挑み、優れたドライビングと瞬時の判断力で、勝利をつかむ!

SC430からRCFへ。  
昨年引き続き、伊藤選手&  
カルダレッリ選手が闘う

昨年の最終戦から5ヶ月、長い冬のシーズンオフを過ごし今年もスーパーGTがサーキットに帰ってきた!

2014年シーズンはスーパーGT大改革の年となり、将来的なグローバル化を目指しDTM(ドイツツーリングカー選手権)と車両規則を統一することになった。その結果、3メーカーともが新車へスイッチする形となり、昨年より体制を継続するLEXUS TEAM Keeper TOM'Sもマシンをレクサス陣営の新車「RCF」に変えて1年を戦う。2014年もドライバーは変わらず、伊藤大輔とアンドレア・カルダレッリの2人が2年目での初優勝、さらにはシリーズ優勝を目指して戦っていくこととなる。

4月5日(土)予選  
Q1はトップタイムで通過!!

街では桜の舞う中、この週末は気温が10度を下回り、迎えた土曜日の練習走行では7番手タイムで予選へ向けた最後の調整を行う。そして、今シーズン最初の予選となるこの日の午後、路面温度は低いものの心配された天候は崩れず、ドライコンディションのまま。事前テストで伊藤大輔がマシンの調子は良いと感じていたとおり、まずはQ1をトップタイムで通過。早速の好結果に大きな期待をもってQ2へ。

5番手で決勝へ!

決勝のグリッドを決めるQ2では、アンドレア・カルダレッリにステアリングを

託し、渾身のアタックをかけたタイムを更新するもGT500クラスは全車がコースレコードという驚愕の戦いとなり、トップから0.4秒差の5番手タイム。同順位から翌日のスタートを切る。

4月6日(日)決勝  
目の覚める走り、「一気に2番手へ!」

開幕戦決勝日は、前日を超える寒さで曇(ひょう)や雨がぱらつく中、朝の練習走行はウェットコンディション、各車レインタイヤで最終調整を終える。そして午後2時、天候が回復し注目の決勝スタートはドライコンディションの中。まずはアンドレア・カルダレッリがファーストドライバーを務め、1周のウォームアップラップ追加、2周目のフォーメーションラップの後、5番手からスタートを切る。激しいコーナーの争いに、37号車は一時7番手と表示されるも、オープニングラップの混乱を乗り切り、4番手でメインストレートに帰ってきた。

ポジションをアップした勢いそのままに2周目で前を行く12号車をオーバーテイクし3番手表彰台圏内へ! さらに勢いは増し、トップ2台を猛追していく。レースが20分程進んだ頃から雲行きが怪しくなり、19周目にはついにコース上にも雨粒が落ちてくる。これが1つ前を走る46号車に禍したか、ペースが鈍り翌20周目に追いついた37号車Keeper TOM'S RCFが一気に抜き去り2番手へ浮上! いやいよ優勝が視界に入ってきたが初勝利への道のりが簡単ではないことをここからの中盤戦で知ることになる。

を選択した37号車と違いソフトタイヤでPPを取りに行った6号車がペースをやや落とす中、反対にペースを保ちテールトゥノーズの状態に。ここから一進一退を繰り返しながら37周目に先に37号車がビットイン、ビット戦略を絡めながらトップ浮上を狙う。

シフトの入らない6号車の  
一瞬の隙をついてトップに!

ビットへ飛び込んだ37号車はタイヤ交換 給油と共に伊藤大輔にドライバーを交代。殆どタイム差のなかった両車がビット作業を済ませた後、タイヤの冷えた6号車を追いかけていた37号車だが思うようにタイヤが温まらず、その差は8秒以上もの大差が! 実は先に入った37号車はビットインをする際に300クラスのマシンとタイミングが重なり、ビットロードで大幅にタイムロスをしてしまっていた。

しかし経験で勝る伊藤大輔はそこからタイヤを労わりながらシフトとタイム差を削っていき、51周目にはトップの後方にビットリとつけ、300クラスのマシンを利用して横に並びかける! ここでは追い抜きがかなわなかったものの遂には55周目、トップを行く6号車のシフトが入らなくなった一瞬の隙をついてトップの座を奪い取ることに成功!!

ついに、チーム希望の  
トップチェッカー!!

その後も伊藤大輔はベテランらしい落ち着きを見せて、300クラスの渋滞にヒヤリとしながらも後続との差を保ったまま走行を重ね、遂にLEXUS TEAM Keeper TOM'S 37号車は待望のトップチェッカーの瞬間を迎えた。

